

B

まちづくりの方針

私たちは「平和を愛し、平和の文化を育むまち」をめざします

B
1

基本施策

被爆の実相を継承します

個別施策

- B1-1 平和・原爆関連施設の整備及び被爆資料・被爆遺構の保存・活用を図ります
- B1-2 平和教育・学習の充実を図ります
- B1-3 多様な方法で継承の取組みを推進します

B
2

基本施策

核兵器廃絶の実現に向け、着実に歩みを進めます

個別施策

- B2-1 平和メッセージの発信力を高め、核兵器廃絶の世論を喚起します
- B2-2 平和な世界の創造に向け、ネットワークの構築を進めます

B
3

基本施策

平和の文化を醸成します

個別施策

- B3-1 スポーツや芸術などを通して、身近なところから平和について考え、行動する機会を増やします
- B3-2 若い世代を中心に平和の輪を広げます

基本計画で定めた各種施策を達成するための具体的な事業計画を示した「実施計画書」はこちら



B1 被爆の実相を継承します

被爆継承課

2025年度にめざす姿（なかが、どうなっている）

対 象	意 図
多くの人々が	被爆の実相の継承を進めている。

めざす姿を達成するための個別施策

- B1-1 平和・原爆関連施設の整備及び被爆資料*・被爆遺構*の保存・活用を図ります
- B1-2 平和教育・学習の充実を図ります
- B1-3 多様な方法で継承の取組みを推進します

成果指標

成果指標	基準値	目標値
平和・原爆関連施設入場者数	89万人 (R元年度)	89万人 (R7年度)
「ながさきの平和」ホームページ閲覧件数	106万件 (R3年度見込)	116.8万件 (R7年度)
被爆継承活動をしている人数	422人 (R2年度)	452人 (R7年度)

関連するSDGs



「ながさきの平和」ホームページ



平和学習における対話型授業

* 被爆資料
被爆の実相を示す写真、現物資料等。

* 被爆遺構
原子爆弾の惨禍を伝える建造物等。

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
平和・原爆関連施設、被爆資料・被爆遺構が	適切に保存・整備され、被爆の実相が効果的に伝わるよう公開されている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 民間の旅行サイトで、原爆資料館が高い評価を受けている。
- 被爆遺構を継続的に公開できており、一部の遺構については、国の史跡に指定されたものもある。
- 被爆樹木は、クスノキ基金*を活用し、所有者の負担なしに保存・整備できている。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- 学芸員のマンパワーが不足しており、被爆資料の十分な調査・研究、活用・公開が行われていない。

弱み

- 原爆資料館は開館から25年以上が経過し、施設が老朽化していることから、展示方法等について、新たな整備を必要とする。
- 被爆遺構の保存には、多額の費用がかかる。
- 被爆資料・被爆遺構についても長い年月が経過しており、また、被爆者のいない時代に備え「語り部」に代わる「もの言わぬ語り部」として保存や整備を必要とする。



III 取組方針

① 平和・原爆関連施設の整備

- 平和・原爆関連施設の見学環境の整備を行うとともに、時代のニーズに合わせた展示のあり方を検討します。

② 被爆資料・被爆遺構の保存整備

- 被爆資料・被爆遺構を調査・研究し、その保存と整備にあたっては、国の補助制度を有効的に活用し、見学者にわかりやすい公開を目指します。

関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎原爆資料館条例
- 長崎市歴史文化基本構想
- 国指定史跡長崎原爆遺跡保存活用計画
- 国指定史跡長崎原爆遺跡整備基本計画



長崎原爆遺跡旧城山国民学校校舎

* 被爆資料 (参照 P66)
* 被爆遺構 (参照 P66)

* クスノキ基金
福山雅治氏の呼び掛けにより全国から集まった寄附金が本市に寄附されるのを機に、被爆樹木の保存・整備・活用の財源に充てるために設置された基金。

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
市民や若い世代が	被爆の実相や平和の大切さを学んでいる。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 市立小中学校において、児童・生徒への被爆体験講話や原爆資料館見学など年齢に応じた平和教育が毎年計画的に行われている。
- 平和学習の教材作成や発表会が毎年実施されている。
- 核兵器廃絶市民講座など成人を対象とした講座が継続して開催されている。
- 一部の小学校では、来崎した県内外の小・中・高校生を対象に、被爆の実相や平和の尊さを伝える活動をしている。
- 長崎平和・原爆ホームページを目的別に分類し直したことにより、サイト利用者が平和学習を行いやすくなっている。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- インターネット等を活用した平和学習ツールのニーズが高まっているが、コンテンツ*が十分ではない。
- 成人を対象とした平和学習の場が不足しており、受講するメンバーも固定化している。



III 取組方針

① 平和教育・学習の拡充

- 市民はもとより、広く国内外を含めた若い世代に対する平和学習の機会を増やします。
- インターネット等を活用した平和学習ツールの充実を図ります。
- 被爆の実相をわかりやすく学ぶため、小・中学生を対象とした学習教材等の作成・配布を行います。
- 子どもたちの被爆の実相に関する正しい理解と平和の意識を醸成するため、年齢に応じた平和教育を進めます。
- 平和教育をさらに推進するため、教職員への研修の充実を図るとともに、家庭での平和学習を促進します。

関連するSDGs



平和学習教材「平和ナガサキ」



核兵器廃絶市民講座

* コンテンツ

パソコンなどの媒体を介して提供される情報の内容のこと。

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
多くの人々が	主体的に継承の取組みを進めている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

- うまくいっていること**
 - 家族・交流証言者*の育成は、被爆体験講話への被爆者派遣を行っている（公財）長崎平和推進協会と連携し、順調に進んでいる。
 - 被爆体験講話の聴講や原爆展の解説視聴、平和に関する意見交換などオンラインで経験してもらう取組みにより、継承の取組みを推進する可能性が広がり、進展している。
- チャンス**
 - AR*やVR*などの技術が発展し、被爆の実相の継承に新たな手法を取り入れることが可能となっている。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

- うまくいっていないこと**
 - 被爆遺構*や被爆樹木の見学者に対する案内・誘導環境が十分に整っていない。
 - 県外や国外の人々が被爆の実相等にふれる機会が少なく、十分に伝わっていない。
- 脅威**
 - 被爆者が高齢化し、被爆体験を直接聞ける機会が年々少なくなっている。



III 取組方針

- ① 新たな継承の取組み**
 - 現地で被爆当時の悲惨さをより実感してもらえるように、新たな技術を活用し、継承の取組みを進化させます。
- ② 被爆継承活動の推進**
 - 被爆の体験や思いを受け継ぎ、次の世代に伝えていく家族・交流証言者を増やすとともに、講話の機会を確保します。
 - 国内外で被爆の実相等を伝える原爆・平和展を開催します。

関連するSDGs



県外原爆・平和展



家族・交流証言 定期講話

* 家族・交流証言者
長崎市が行っている「語り継ぐ被爆体験（家族・交流証言）」推進事業の登録者。被爆者に代わって被爆体験を語り継いでいくために市からの委託により長崎平和推進協会が支援を行っている。

* AR (Augmented Reality)
拡張現実。現実の情報に仮想的な視覚情報を重ねて表示することで、現実を拡張する技術。

* VR (Virtual Reality) (参照 P26)
* 被爆遺構 (参照 P66)

核兵器廃絶の実現に向け、着実に歩みを進めます

平和推進課

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対象	意図
国際世論が	核兵器廃絶を求め、更に拡大している。

めざす姿を達成するための個別施策

B2-1 平和メッセージの発信力を高め、核兵器廃絶の世論を喚起します

B2-2 平和な世界の創造に向け、ネットワークの構築を進めます

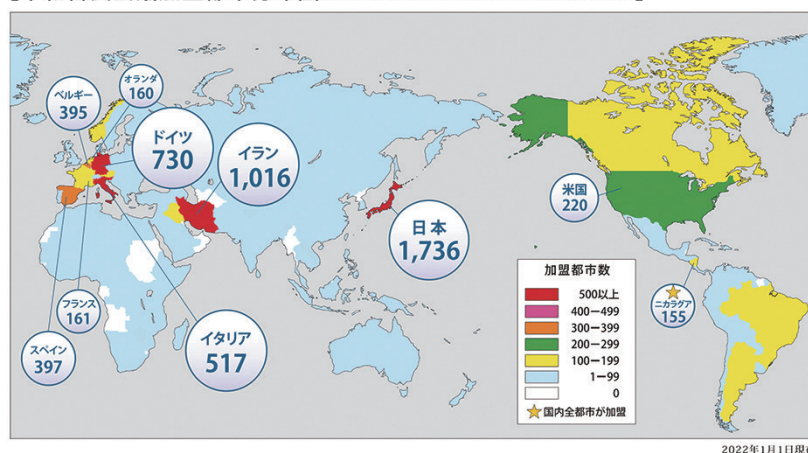
成果指標

成果指標	基準値	目標値
平和首長会議*加盟都市数	8,024都市 (R 2年度)	8,784都市 (R 7年度)

関連するSDGs



【平和首長会議加盟都市分布図(加盟都市数上位10か国とその都市数)】



出典：平和首長会議ホームページ

* 平和首長会議

第2回国連軍縮特別総会で提唱された「核兵器廃絶に向けての都市連帯推進計画」に賛同する都市で構成され、世界平和都市の連帯を推進している。広島市長が会長を、長崎市長等が副会長を務める。

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
国内外の人々が	核兵器の恐ろしさを理解し、核兵器のない世界を希求している。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

- うまくいっていること**
 - 世界の平和団体や関係機関との連携が取れている。
 - 長崎平和宣言をはじめ、国際会議等での演説、関係者への要望等により、核兵器廃絶を希求する強い意思を国内外に発信している。
 - ナガサキ・ユース代表団*など、平和を発信する若い世代の育成が進んでいる。
- 強み**
 - 核兵器廃絶、世界恒久平和に向けた役割を担う都市として、被爆地長崎に期待が高まっている。
- チャンス**
 - 核兵器を全面的に国際法違反とする核兵器禁止条約*が発効された。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

- うまくいっていないこと**
 - 平和活動をけん引してきた被爆者が高齢化するなか、これからも力強く平和をアピールし続けるためには、人材が不足している。
- 脅威**
 - 世界にはいまだ核兵器が存在し、核軍縮は停滞している。



III 取組方針

- ①平和の発信**
 - 世界の平和団体や関係機関と連携し、世界中の多くの人に核兵器廃絶に向けた効果的なアピールを行います。
 - 国際社会において、「核兵器のない世界」こそが世界のルールだという流れを確立するため、様々な機会を捉えて市民社会の声を国際社会に届け、核兵器廃絶につなげていきます。
- ②人材の育成**
 - 長崎地域の大学等と連携し、平和をアピールできる人材を育成します。

関連するSDGs



ナガサキ・ユース代表団と外交官との意見交換

* ナガサキ・ユース代表団

* 核兵器禁止条約（参照 P26）

核兵器をめぐる国際情勢や知識をもつ人材を育成するため、長崎県・市・長崎大学が連携し、県内の若者を国際会議等に派遣するもの。

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
市民・NGO*・都市等が	平和ネットワークの輪を広げ、連携している。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

- うまくいっていること**
 - 国連や国際社会において、平和首長会議等のNGOの活動が盛んになり、影響力が高まっている。
 - 国際交流として、都市間交流、人的交流を進めることで、相互理解、信頼構築が行われている。
 - 被爆（曝）者医療*にかかる人的交流により、国際協力関係を深め、平和な世界の創造に寄与している。
- 強み**
 - 長崎は被爆地として、平和の連帯を呼びかける主体的役割を担うことができる。
- チャンス**
 - 核兵器禁止条約*の発効が、平和ネットワークの連携を深める契機となっている。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

- うまくいっていないこと**
 - 国内外の人々に原爆の悲惨さや平和を希求する被爆地の思いを訴えているものの、今なお、核抑止力に依存する考えが根強く、核兵器廃絶に向けた世論の醸成が十分ではない。
 - 核兵器禁止条約に参加していない国が多く、国際社会の十分な理解が得られていない。



III 取組方針

- ① 関係機関との連携強化**
 - 国際機関や都市、NGOなどとの平和ネットワークを拡大するとともに、核兵器禁止条約の発効を力に関係機関との連携を強化します。
- ② 平和ネットワークの構築**
 - 姉妹都市*、市民友好都市*との交流や被爆（曝）者医療にかかる人的交流を推進し、国際協力関係を深めることで、平和ネットワークの構築に寄与します。

関連するSDGs



関連する計画等

- 平和首長会議行動指針「持続可能な世界に向けた平和的な変革のためのビジョン（PXビジョン）」
- 平和首長会議行動計画（2021～2025年）



長崎平和特派員による「平和の折り鶴」事業



日本非核宣言自治体協議会設立35周年記念事業

* NGO（参照 P13）

* 被爆（曝）者医療
広島市と長崎市に投下された原子爆弾による被害者（被爆者）に対する医療、及び世界各地で発生している放射線被曝事故等による被災者（被曝者）に対する医療をいう。

* 核兵器禁止条約（参照 P26）
* 姉妹都市（参照 P60）
* 市民友好都市（参照 P60）

B3 平和の文化*を醸成します

平和推進課

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対象	意図
多くの人々が	当事者として、平和を考え行動している。

めざす姿を達成するための個別施策

- B3-1** スポーツや芸術などを通して、身近なところから平和について考え、行動する機会を増やします
- B3-2** 若い世代を中心に平和の輪を広げます

成果指標

成果指標	基準値	目標値
平和の文化認定事業*数[累計]	5件 (R3年度見込)	25件 (R7年度)

関連するSDGs



平和の文化

「平和の文化」ロゴデザイン

平和の象徴の「鳩」のパレットに、様々な色をつくることのできる「色の三原色」を配色した「平和の文化」のロゴデザイン。
この色の三原色を組み合わせると、誰でも様々な色を生み出すことができるように、「平和は、誰でもつくっていくことができるし、その方法は無限に広がっている」ということを表現しています。

* 平和の文化（参照 P21）

* 平和の文化認定事業

多くの人々が当事者として実施する平和の取組みを顕在化し、平和の輪をさらに広げ、日常の中に「平和の文化」を根付かせていくため、個人又は団体が主体となって実施する事業を認定するもの。

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
多くの人々が	スポーツや芸術などを通して、身近なところから平和について考え、行動している。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

- うまくいっていること**
- 近年、スポーツや芸術などで、平和を発信する動きがある。
- 強み**
- プロスポーツチームや長崎出身のアーティストなどが平和に関する取組みを積極的に行っている。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

- うまくいっていないこと**
- 平和活動は、特別な人だけがやることと捉えられがちな風潮がある。
 - 自分が好きなスポーツや芸術などを通じて、平和を発信できることを十分に周知できておらず、多くの人が様々な形で平和について考え、行動することにつなげられていない。
 - 平和について身近なところから考え、行動する機会が少ない。



III 取組方針

① 機会の創出

- スポーツや芸術などを通して、だれもが身近なところから平和について考え、気軽に行動するための機会を創出する。

関連するSDGs



「平和の文化」認定第1号
(V・ファーレン長崎 平和祈念活動)

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
若い世代が	平和の大切さを理解し、伝え、広げるための活動をしている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

- うまくいっていること**
 - 平和活動の担い手となる青少年ピースボランティア*を継続的に育成できている。
 - 市内の高校生などにより活発な平和活動が行われている。
 - 青少年ピースフォーラム*ではピースボランティアが企画・運営を担い、例年、全国の自治体から派遣された青少年を受け入れており、平和の輪の広がり貢献している。
- チャンス**
 - SNS*の活用により、若い世代に対し、ピースボランティア自らの企画を積極的に発信できる環境にある。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

- うまくいっていないこと**
 - 青少年ピースボランティアの活動に参加する若者が固定化する傾向がある。
 - ピースボランティア自身による企画や活動において、定例的な活動が多く、新しい取組みが少ない。
- 脅威**
 - 長崎市では、若い世代が比較的に平和活動をしているが、全国的には平和活動に対する意識が薄い。



III 取組方針

①人材の育成と活動機会の拡充

- 被爆の実相の継承への理解を深め、様々な視点から平和について考える若い世代の人材を育成します。
- 様々な地域の青少年が被爆の実相について学び、平和について意見を交換する場を設けます。
- 若い世代との連携により、若い世代が平和を伝え、広げる活動に参加しやすい仕組みをつくります。

関連するSDGs



青少年ピースボランティア



海外の若者と平和学習を行う高校生

* 青少年ピースボランティア

長崎市が行っている青少年ピースボランティア育成事業の登録者。15才（中学生を除く）以上30才未満を対象とし、市の平和事業のボランティアや被爆の実相の継承に取り組んでいる。

* 青少年ピースフォーラム

8月9日の平和祈念式典にあわせて、全国の青少年が長崎に集まり、被爆の実相や平和の尊さを学習するイベント。青少年ピースボランティアが被爆遺構のガイドや進行役等を務めている。

* SNS (Social Networking Service)

(参照 P16)

